

2-34-4 宇治上神社

宇治上神社は、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）で採択された世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約に基づき、「古都京都の文化財」のひとつとして世界遺産リストに登録された。このことは、人類全体の利益のために保護する価値のある文化遺産として、特に優れて普遍的価値を持っていることを国際的に認められたことになる。

宇治上神社の創建は古くさかのぼるが、平安時代に平等院が建立されるとその鎮守社となり、その後、近在住民の崇敬を集めて、社殿が維持されてきた。

本殿は、正面1間の流造の内殿3棟を並立させ、それを流造の覆屋で覆った特殊な形式となっている。建立年代については、^{かえるまた}臺股の意匠及び組物などの細部の特徴から平安時代の後期に造営されたものとみられ、現存する神社本殿としては最古の建築である。

また拝殿は鎌倉時代の初めに建てられたもので、現存する最古の拝殿である。意匠的には切妻造の^{もや}母屋の左右に^{ひさし}庇をつけた形であり、屋根はその部分が^{すがるはふ}縫破風となっていることなど住宅風となっている点に特色がみられる。

神のための本殿に対し、人の使う拝殿には住宅建築の様式が採用されることが多く、ここでは、拝殿が初めて建てられた頃の住宅建築の様式である寝殿造の軽快な手法が、鎌倉時代の再建にも受け継がれたと考えられる。

本殿の後方は広大な森林が広がっており、こうした環境は緩衝地帯の一部となっている。

登録年月日 平成6年（1994）12月15日決定、17日登録

宇治市

説明板より